

ハタコンサルタント株式会社
降旗達生
 Tatsuo Furuhashi



「あなたの居場所はここにあり、ここにあり」 ～Gリーグ..技能リーグ設立プロジェクト～

本日は私、青木太陽の結婚式にご参加いただきありがとうございます。今年には私にとって最高の一年でした。

私はこれまで日本中のトンネルを掘ってきました。いくつもの技術賞を受賞することができました。苦勞をかけた母のために念願の家を建てることができました。そして今日、このように麗子と結婚することができたのです。

実は十七歳の時、私は少年院にいました。私

が三歳の時、父は病気で亡くなりました。勉強も運動も苦手で、学校にも家にも居場所がありません。つい悪い仲間と行動するようになり万引きに手を染めてしまいました。

ある朝、玄関の呼鈴がなりました。警察でした。窃盗容疑で、少年院に入ることになりました。

少年院の生活はつらいものでした。ある日、みんなから「ボス」と呼ばれる人が少年院にやって来ました。ボスは私たちに木工、左官、塗

装、溶接といった建設技能を教えてくださいました。ボスは怖いけれど優しい父さんのようでした。少年院を退院するとボスが玄関で待っていてくれました。ボスは私を技能トレーニングセンター（Gトレセン）に連れて行ってくださいました。

Gトレセンでは、小中学校の子どもの達もものづくりに励んでいました。そこでは、現役やOBの建設技能者が技能コーチ（Gコーチ）として子ども達に建設技能を教えてくださいました。みんな木工、左官、塗装、溶接などとても楽しそうに

取り組んでいました。私は毎日のようにGトレセンに通うようになりました。

ボスが言いました。

「太陽、技能リーグ（Gリーグ）全国大会に挑戦しろ。優勝してGリーガーになるんだ」

私は努力して技能を学び、ついにGリーグU-15全国大会に参加することができました。

しかし最下位でした。

ボスは、「本物のGリーガーになるため、Gリーガー養成合宿に参加しろ」と言いました。

合宿は厳しく、まさに地獄の特訓でした。Gコーチが徹底して技能や建設人としての礼儀を教えてくださいました。

そして翌年再びGリーグU-15全国大会に出場することができました。みんなカッコいい橋をつくっていました。でも私も負けてはいません。そしてついに優勝することができました。母は飛び上がって喜んでくれました。母の笑顔をはじめて見ました。

ボスが言いました。「Gリーグ優勝者の太陽に建設会社からスカウトが来たぞ。太陽、トンネルを掘らないか」「ボス、僕やるよ。たくさん稼いで母さんを楽にするんだ」

トンネル工事に従事することになりました。「太陽、岩盤をよくみるんだ。そうだ」

「機械を直角にあてろ。ダイナマイトを出せ。穴に詰める。点火」ドッカーン

きれいに掘れました。

「太陽、すげーな」みんながほめてくれました。た。

私の居場所がやっとわかりました。

妻、麗子と知り合ったのはその工事現場です。今日の結婚式で父の席に座っているのはあのときのボスです。私が結婚できるのはボスのおかげです。

ボスは、私、降旗が目指す姿です。

私は八歳の時、映画『黒部の太陽』を観ました。苦勞してトンネルを掘る姿を見てこれが男の仕事だと感じました。

その後、青木太陽と同じようにトンネルやダムを作ってきました。建設の仕事にやりがいと誇りを感じていました。

一九九五年一月十七日、阪神・淡路大震災が、生まれ故郷神戸、そして私の実家を破壊しました。そのとき天の声が聞こえました。「俺がやらなきゃだれがやる」

私は建設技術を高め、地震や台風や洪水から人の命を守る仕事をしようと考えました。高い技術と技能で、建設業は愛する人の命を守る仕

事なのです。

あるとき、埋もれている子ども達がいることに気づきました。人と少し違うだけで、ダメなヤツと言われるヤンチャ少年、ひきこもり、性的少数者、虐待を受けた児童。

そんな子ども達も居場所を作るため私は、廃校などを利用してGトレセンを全国に作り、Gリーグを全国で開催します。そして、道から外れることのないよう、小学校の早い段階で技能を学べる場所（Gトレセン）を学童保育内などに作りたいと考えています。建設業なら子ども達の居場所を作ることができます。

「あなたの居場所はここにあるのです」と多くの子ども達に伝えたいのです。

居場所を見つけることで、子ども達に笑顔に戻す。建設業で活躍することで、みんなから「すげーな。おまえがいてよかった」と言われるようになります。

結婚式の最後に、新郎青木太陽より挨拶があります。

「母さん、僕に厳しい母さんの気持ちかわからなかった。でも父さんがいなかったから厳しく接してくれたんだね。母さん、初めて言います。ありがとう」